

おおむた「大蛇山」まつり
新型コロナウイルス感染拡大防止
ガイドライン

令和4年7月12日 版

目次

基本方針

- 1 基本的な感染症対策
- 2 新型コロナウイルス感染症が疑われる症状
- 3 想定される感染リスクと対策
- 4 会場での感染症防止対策
- 5 観覧客へ求める感染症防止対策
- 6 出演者へ求める感染症防止対策
- 7 感染症に対する運営体制強化
- 8 感染の疑い・発生時の連絡先

はじめに

本ガイドラインは、政府や県により発出されている方針及び新型コロナウイルス感染症対策専門家会議による提言等を踏まえ、おおむた「大蛇山」まつりの運営にあたり、新型コロナウイルス感染症防止の対策など留意すべき事項をとりまとめました。

現在のコロナ禍において、大牟田を代表するまつりである「大蛇山」行事を保存及び継承するためには、おおむた「大蛇山」まつり振興会をはじめとする祭り参加者及びその他山関係者、そして市民や観光客の相互協力のもと、様々な重要課題を乗り越える必要があります。

今後は感染症拡大防止のため”新たな生活様式”を踏まえつつ、熱中症対策に配慮した”おおむた「大蛇山」まつり”を建設的に考えていく必要があります。関係者一同で直面する諸課題に取組み、安心安全なおおむた「大蛇山」まつりを準備してまいります。

基本方針

- 国・県からの要請や諮問委員会等の指針を基に、おおむた「大蛇山」まつり行事の実施方法を検討し、柔軟に対応する。
- 新しい生活様式に合わせた感染症防止対策を実施する。
- 観覧者の感染リスクを抑える取組みを実施する。
- 水際対策を徹底する。

※まつり期間中の関係者の体調管理を徹底

1 基本的な感染対策

(1) 身体的距離の確保

- ①人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
- ②会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。

(2) マスクの着用

- ①マスクの着用を徹底する。また、熱中症に十分注意する。
- ②飲食の際は、マスク会食を徹底する。

(3) 手洗い・消毒

- ①手首から指先にかけて30秒程度流水で流し、石けん等を使用し丁寧に洗う。
- ②手洗い後、手指消毒薬を使用する。

(4) 地域の感染状況に注意し、感染が流行している地域への往来は控える。

(5) 発症時に備え、COCOA等接触確認アプリを活用したり、行動記録をとる。

2 新型コロナウイルス感染症が疑われる症状

体調管理を徹底し、以下の症状がある場合は、参加を自粛し、早期の感染拡大防止に努める。

(1) 37.5度以上の発熱がある。

(2) 呼吸器の症状がある。

- ①息苦しさ ②咳 ③痰 ④喉の痛み ⑤鼻水、鼻づまり

(3) 倦怠感がある、頭痛

(4) 味覚、嗅覚異常（味がしない、匂いがしないなど）

3 想定される感染リスク

(1) 参加者どうしの接触や会話

(2) 家族や近親者からの家庭内感染

(3) 勤務先、学校内等での共用物品、不特定多数の人が触れる面への接触

(4) マスクを外しての会話や飲食

(5) 会合時における接触や会話

(6) 公共交通機関等での移動

(7) 体調不良者の移送

4 会場での感染症防止対策

(1) ゾーニング

観覧客と出演者のエリアをプラスチックフェンス等で区分けする。

(2) 感染防止案内

観覧客に向け、感染防止啓発用プラカードや看板を等間隔に設置する。

(3) スタッフ体制

警備員を配置し、観覧客の密発生や大声、滞留等を監視、注意する。

(4) 飲食禁止

観覧エリアは原則的に飲食を禁止する。(熱中症予防のための水分補給や塩分摂取は推奨)

(5) 露店の住み分け

催事エリアとは別に飲食エリアを設け、必要な感染症対策のもと露天商の営業を許可する。

5 観覧客へ求める感染症防止対策

(1) マスク着用

マスク着用のうえの来場とマスクを着用していない者は観覧エリアに入れないなどの事前周知を徹底する。

(2) 大声禁止

観覧エリアにおいて大声による会話や出演者への声かけを禁止する。

※大声の定義は「観客等が、通常よりも大きな声量で、反復・継続的に声を発すること」とする。

(3) 接触確認ツールの使用

COCOAなどの接触確認アプリの使用を推奨する。

(4) 体調管理

新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある者は来場を控えるよう呼びかける。また、熱中症防止のため、こまめな水分補給を促す。

(5) 新たな観覧方法の推奨

観覧客が過度に来場することを避けるため、ネット配信環境を整備し動画配信を行う。新しい観覧の方法を事前に周知する。

6 出演者へ求める感染症防止対策

〈共通〉

(1) 名簿の作成

参加団体の代表者は、参加者をまとめた名簿（氏名及び連絡先）を作成し、開催日の7日前からの検温記録をとり、これを厳重に保管する。振興会より要請があった場合は名簿を提出する。この期間中に37.5度以上の発熱や咳、咽頭痛、倦怠感、味覚嗅覚異常などの症状が見られた者は参加を自粛する。

(2) 周囲との距離

出演者は、周囲とのフィジカルディスタンスを確保する。

(3) 水分補給時の注意

熱中症対策のためこまめな水分補給を推奨する。コップやペットボトルの共用はしない。

〈大蛇山関係者〉

(1) 感染症に対する個別水際対策

参加はワクチン3回目接種後7日以上経過したもの又は開催日の朝に抗原検査キットにより陰性が確認されたものとする。ただし、若年者など3回目のワクチン接種に至っていないものは当日朝の抗原検査キットの使用を推奨する。

※抗原検査キットは振興会で用意する。

(2) マスクの有無

原則としてマスクやマウスガード等を使用する。

（ただし、熱中症や呼吸器疾患防止の観点から出演者エリア等での大蛇山運行時はこの限りではない。）※マスク等は振興会から補助する。

(3) 呼気を使用する楽器の取扱い

法螺貝やホイッスルなど呼気を使用する楽器を使用する者は、周囲と距離をとって使用するか、呼気を使用しない電子ホイッスルなどを使用する。

(4) 山車内での密防止

山車内での密を避けるため、山車に乗せる太鼓は1つまでとする。ただし、山車内に上がる人数を制限する等、密を回避する対処をとる場合はこの限りではない。

(5) 下山の運行

山車の運行時など必要最低限の場合に限り、肩が触れる程度の距離に接近する事を認める。それ以外の場面ではフィジカルディスタンスを守る。

〈総踊り参加者〉

(1) マスク使用の場面分け

総踊り中はマスクの着用を任意とする。ただし、休憩中に周囲と会話したり出演者エリアを退場する場合はマスクを着用すること。

〈ちびっこ行事〉

(1) 子ども行事用の名簿作成

児童と保護者のつながりがわかる名簿を作成する。

(2) 1団体の参加人数上限を50名とする。

出演者エリアの混雑を避けるため、1団体の参加児童人数50人を基本としますが、それ以上の参加児童が見込まれる団体は別途協議をお願いします。

(3) 保護者の参加は児童1名に対し、1人まで。

(4) 水分補給時はコップやボトルの共有はしない。

(5) 熱中症防止の観点より、マスクの着用は任意とする。

(6) 参加団体はこまめに参加児童の手指や共用具の消毒を行う。

※アルコール消毒液または除菌シートは振興会で用意。

(7) ちびっこ大蛇山参加児童は当日朝に抗原検査キットで陰性を確認する。

大蛇山行事は身体的距離の確保が難しいため、抗原検査キットの使用をお願いします。また、陰性が確認が取れても、当日体調が優れない児童は参加を控える。

※抗原検査キットは振興会で用意。

(8) 所属団体の感染防止対策遵守

ここに示す感染症防止対策に限らず、参加団体にて感染防止基準を設けている場合は、同じく遵守する。

〈飲食・露天商〉

(1) 飲食エリアの設置

催事エリアとは別に飲食エリアを設ける。

(2) 入場者への感染防止対策

飲食エリアは出入口を設置し、来場者に手指消毒の協力をお願いします。飲食時は〔黙食〕を呼びかけ、会話は控える。

(3) マスクの着用

飲食時以外はマスクの着用を周知する。

(4) 大声への対応体制

大声や大人数で密集を回避するため、飲食エリアに警備員を配置し、感染症防止の注意喚起・啓発を行う。

(5) 密集回避の取組み

各店舗は客が密集しないよう、また距離をあけて並ばせる等の密集・密接回避の対策に取り組む。

7 感染症に対する運営体制強化

(1) 振興会事務局の人員体制強化

準備期間が短い中で、コロナ感染症対策を含んだまつり開催に関する対応等が予想されるため、事務局の人員・設備を強化して準備に臨む。

(2) おまつり当日のスタッフ体制強化

3密防止呼びかけなど通常よりも人員が必要となると同時に観覧客への啓発・周知が必要である。その為に警備員やスタッフの増員とともに、統一したユニフォームや腕章、プラカード等を準備し、有効な規制に努める。

8 感染の疑い・発生時の連絡先

出演者はおまつり終了後、1週間内にコロナ感染陽性となった場合は、速やかに下記のおおむた「大蛇山」まつり振興会事務局まで連絡すること。

おおむた「大蛇山」まつり振興会 事務局
(大牟田市観光おもてなし課内)
電話：0944-41-2750
メール：e-kankoomotenashi01@city.omuta.fukuoka.jp